

廃棄物処理対策研究事業 中間評価 評価結果

研究課題名	代表研究者	総合評価	学術的 必要性	社会的 必要性	目標の 達成度	計画の 妥当性	継続 能力	補助の 必要性
医療廃棄物の戦略的マネジメントに関する研究	岡山大学 田中 勝	3.5	3.2	4.3	3.5	3.3	4.0	3.4

(研究概要) 研究概要及びこれまでに得られた研究成果を400字以内で記入

ダイオキシン類への懸念から院内焼却処理が無くなり外部委託処理が増加している。それに伴う不法投棄、分別基準厳密化に伴う感染性廃棄物の相対的増加による費用の高騰等、医療廃棄物の問題解決のため、戦略的な廃棄物マネジメントの確立を目的とし研究を進めてきた。感染性廃棄物総排出量は28.5万トン/年と推定され、外部委託処理98.9%(2年前;98.2%)、院内焼却処理4.2%(2年前;5.2%)、自治体施設処理2件であった。その処理費用は361億円/年、164.5円/kgと推定される。院内での非焼却処理法は菌種によって滅菌効果が異なり、マイクロウエーブ処理残渣に生菌の残存が確認、非焼却処理の問題点も確認できた。医療関係製造企業の拡大生産者責任(EPR)への取組みは、安全性・経済性を重視する結果、遅れている。海外では、血液が少し付着している程度では一般廃棄物扱いとするケースが多いことなど分かった。

(評価コメント)

- 実態調査は評価できるが、実際にどの様に処理すべきか、戦略的マネジメントが見えない。
- 医療廃棄物の最適管理(環境、コストなど)のガイドライン作成に向けて、データ収集が進んでいる。
- 実態調査から改善への道筋に対して「戦略的」が、際立つ形で研究を進めてほしい。
- 非焼却法による滅菌の効果については、科学的見地からの丁寧な考察が必要。
- 研究成果を最大限生かせるよう、廃棄物関連以外の学会、法律等の連携も考慮すべき。
- 成果からガイドラインのイメージが、まだ遠いイメージを感じる。廃棄物の分析、処理方法までの道筋を示してほしい。
- 大規模な調査結果は、平凡である。

注) 評価コメントについては、研究課題代表者が、総合評価を評価者全体の評価結果として捉えた上で、すべての評価コメントの反映を目指すのではなく、各コメントの中で今後活かすべき重要な指摘や示唆が何かを吟味・判断の上、今後の研究計画の見直し等に活用することを期待する。